

## 議長ティータイム

日時：令和5年12月25日（月）午後1時半～

場所：議長執務室

### 1 今定例会を振り返って

（議長）

皆様こんにちは。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

12月定例会が22日に閉会しましたので、まず今定例会の主な出来事を紹介させていただきます。

（1）議員表彰について、11月29日の開会日に沖縄県議会議員の永年勤続者表彰と全国都道府県議会議長会の自治功労者表彰式の伝達をそれぞれ対象議員に行いました。（2）それから本会議代表質問1日目に議会が空転しました。12月5日の代表質問で「普天間飛行場代替施設建設事業」の正式名称で答弁されていない旨の指摘をめぐり、約7時間にわたる議会空転が生じました。議長として、各派代表者会を開催し各会派の意見を聞いた後に本会議を再開し、その日の代表質問は2人を翌日の冒頭に変更して終了しました。（3）次に、ジョージ駐日インド共和国大使の議会訪問について、12月6日にジョージ駐日インド共和国大使が沖縄県議会を訪問していただいて、そこでいろいろと意見交換をさせていただきました。（4）次に、乙第10号議案に対する附帯決議についてなんですけれども、車両損傷事故等に関する和解等について、12月15日の土木環境委員会において附帯決議が決定され、22日の本会議において賛成多数で可決しました。（5）議員提出議案がありまして、12月7日の本会議において「鹿児島県屋久島沖における米軍CV22オスプレイ墜落事故に関する意見書及び同抗議決議」を、22日の本会議において「生涯を通じた国民皆歯科健診の実現を求める意見書」、「硬膜外自家血注入療法に対する適正な診療上の評価等を求める意見書」及び「パレスチナ自治区ガザ地区における即時の人道的停戦を求める決議」を、それぞれ全会一致で可決しました。

さらに最終日は討論が行われまして、知事三役等の賞与についての反対、賛成に分かれて、また水道料金の値上げについては、討論が約7名くらい出て、かなり活発に答弁がなされて、知事三役等の賞与は可決、企業局の水道料金についても可決したということです。

私のほうからは以上です。

(記者)

駐日インド共和国大使の表敬はどのような感じでしたか。

(議長)

知事にも会ったみたいですが、今後沖縄との様々な交流をいろいろやっていきたいということでした。御存じのとおり、インドは今発展しているところで、沖縄にも非常に友好的ですので、これからさらに発展を成し遂げていこうと思います。もう一つお伝えしたことは、去年、議員派遣団でアメリカのシリコンバレーに行った際に、アップルの本社や一帯の企業のところには、中国人とインド人の若者しかいなかったんですよ。アメリカにいるのにインドの学生が多かったということもお伝えしました。大使からは、人材の育成に相当力入れているということでしたので、優秀な技術者が世界各国のあちこちにいるなということを感じました。その辺も今後、沖縄の若者との交流は積極的にやっていただきたいなどお伝えしました。

グーグル本社などを全部視察しましたが、アメリカ人や中国の方もいましたけど、インドの方々がとてもたくさん働いていました。収入が高いんです。あの時説明受けた年収が3千万や4千万で、普通なんです。けれども、4、5年くらいで辞めるそうです。次に行くんですよ。だからその間に稼ぐということで、相当優秀だということ言ってました。インドの大使もそういう人材を自国からどんどん出しているということで、すごい自信を持っていました。

(記者)

優秀な人材はインドから出て行って、キャリアを積んで戻ってくるのですか。

(議長)

インドにも戻るけど、そこから世界各国にも行かれてそこで実績を積んでいます。アメリカは積極的にその優秀な人材を取っています。日本は取っているところもありますが、そこまで多くはないです。だから日本が遅れている理由がなんとなく分かります。経済がこの30年間、低成長で所得も上がらずに、やはりその間いろいろな形で抜かれたじゃないですか。それは、いろいろな人材がアメリカのほうに出て行くということが大きいと思います。中国もやはり経済が伸びている、格差はあると思うのですが、若い人たちの能力が高いという感じがします。だからある意味、中国にとってはインドは脅威にはなるんですが、したがって余計日本にとってはインドとの連携は大事だと思います。さらに大使も沖縄に興味を示しているので、この小さな島ながらよく沖縄のことを知っておられました。大使はかなりいろいろな方と意見交換や情報交換を今回やっていま

すので、これは今後大事だなと思っております。

そこをお願いされたことが、沖縄県議会で議員連盟をつくってほしいと言われてきました。ただ私自身あまりインドに行ったことがないので、ピンポイントで議員連盟と言われたから、一応、話はしますねとは伝えました。県議会には、沖縄台湾議員連盟があるのですが、インドということは否定する訳ではないのですが、私が県議会に在籍している間につくることは難しいと思うので、次の議長への申し送りに、議員連盟をつくってほしいという要望がありましたということは伝える予定です。

今回は議会で忙しかつたので、年が明けたら正式な各派代表者会でやるのか、意見交換をするのか、そこでそういうふうな要望が来ていますということ伝えてようと思います。おそらく改選後になると思うのですが、改選したタイミングでこの件についてを検討したらどうかと思います。何なら、議員も今まではインドに行く理由があまりなかったもので、今後はそれも調べてみるのも面白いかなと思います。

(記者)

議員連盟というのは実際に何をされるんですか。

(議長)

議員連盟というのは、例えば沖縄台湾親善議員連盟というのはもう大分前からありますね。目的はちゃんとあるんです。様々な交流をやろうということで、大分前の先輩方が、一番近い外国でもあり、歴史的にも繋がりが強いので、議員の皆さんがそういう交流や情報交換、人材交流などということをやろうという声でつくられました。

沖縄台湾親善議員連盟については、4年に1回くらいは視察に行くようにはしていますけれど、あと台北沖縄事務所があるので、そことの連携は結構やっております。

あと議長としても結構細かくやっているもので、私は個人的には台湾から学ぶことが非常に多いなと思っております。台湾も九州くらいの大きさの島ですが、台湾は半導体などいろいろな形で世界1位をいくつもとっているもので、台湾から見習うことはたくさんあるだろうなというふうに考えております。

その他に観光振興議員連盟などいくつかあります。基本的には通常、会派は会派で政策を共有してつくるんですけど、議員連盟というのは会派を問わず、与野党を問わず、賛同した方々でやるので必ずしも議長が会長ということでもありません。一昨年は海上保安議員連盟という連盟をつくりました。第十一管区が全国で一番大きいんです。それについては議員全員は入ってはいませんが、

これについての議員連盟をつくったので、そうすると、海保から直接いろいろな情報が入ってきます。事件や事故が起きたときなどは連携させてもらっています。あと、自民党中心に防衛議員連盟というのがあります。

(記者)

代表質問初日の7時間空転したことに対して、議長はどうお考えですか。

(議長)

私の中では、これはいきなり言った事ではなくて、その前に自民党からの指摘で、これは正式名称ではないのではということ、当時の土木建築部長が辺野古新基地という言葉を使ったことに、違うのではないかと訂正したのです。

正式名称は普天間代替施設ということで直したのです。だから、こういう議会で、政治家が新基地と言うのはいいが、ただ、事務方が答弁するのだったら正式名称がよいと、だってそういう新基地という言葉はないではないかと言ったので、それを直したものですから、一応議長として適切な用語を使うように留意してもらいたいという文書を出しました。それは拘束力はないですよ、ないけれど一応議長としてそれを伝えて、9月にまた同じ発言が出たのもう一度文書を出しました。しかし、今回また言うものですから、どうしますかとなって、そこで自民党の代表質問だったのでそれはこうじゃないかということで、ただ、今度は与党は辺野古新基地と使っているの、そしたら知事や県の整理の仕方としては、要は技術的なものじゃないものに関しては県の方針がそういう形にはなったということですから、ただ、その前の経緯がちゃんとあったということですよ。一方で共産党は那覇軍港については浦添新軍港と言っているのです。これについては言わないんです。那覇軍港の代替施設というんです。使い分けだなと思いました。これについては知事は賛成ですからね。だから自分たちがこういったときには使う、那覇軍港については、共産党がもし野党だったらめちゃくちゃに言っていると思います。要するに、なぜじゃあこっちも新港じゃないのかと思います。これについてはそう言わないということは一貫性がないなと私は思います。

(記者)

議長としてはまた次の議会でこういうことがあったらどうしますか。

(議長)

一応、今回その後に知事や知事公室長には新軍港と言っているの、それについては自民党もこれはこれで。ただ、土木建築部長が使うとまた違うということ

です。ただ、議長としてはちゃんと正式な用語を使ったほうがよいというのは、私はそもそも間違っていないと思うのです。

みんな言いたい放題ではなく、議会はやはり議事録にも残るし、オープンな場なので、やはりちゃんとした用語、正式な用語を使うのはそれはそれで当然だろうなと思っていて、ただ、今言うように政治的な部分がありますので、それは双方が納得すればいいのかなと思います。

(記者)

県議会で、知事のボーナスが上がるのが可決されたのはどうですか。

(議長)

これは、3.15月から3.25月に上がるということで、これは知事が単独で上げたのではなくて、国から、国の上げ幅に合わせてということなんですが、国もちよっと議論になっていました。議会にも来ていたんですけど、議会はまとまらなかったの、議会は3.15月のままです。ただ、討論の中であった、知事は15%、副知事は10%減額している中で賞与を上げるというのは、国から来たとは言え、これはおかしいのではないかというのは、県民から見たらそうだろうなと思います。あと、九州や他府県を見ると、3.4月なんですけど、沖縄県議会は、平成21年から子どもの貧困が高いことから、翁長政権の時に据え置こうということでずっと据え置いてきたのです。結果、ずっと据え置いてきた額が議会だけで約8,000万くらいになっているんです。

私は今回、議長としては3.25月じゃなくて、一旦3.4月に戻したらどうですかと提案しました。上げるというよりも九州に合わせたらどうですかということも議長案として提案しました。何度か議論したのですが、まとまらなかったの、現状維持のままになったのです。

よろしいでしょうか。ではまた皆さん来年もよろしく願いいたします。ありがとうございました。